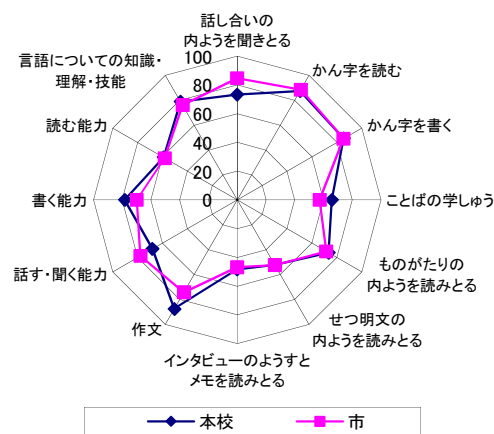


宇都宮市立海道小学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞きとる	73.3	84.6
	かん字を読む	87.5	88.6
	かん字を書く	85.4	85.4
	ことばの学しゅう	65.8	57.3
	ものがたりの内ようを読みとる	73.3	71.5
	せつ明文の内ようを読みとる	52.2	52.5
	インタビューのようすとメモを読みとる	48.3	46.8
	作文	87.5	74.2
観点別	話す・聞く能力	68.1	77.8
	書く能力	78.3	69.9
	読む能力	59.2	58.2
	言語についての知識・理解・技能	78.9	76.0



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞きとる	・ 平均正答率は、市の平均より11.3%低い。 特に、話題に沿った意見と理由を考えて話すことについての問題の正答率が低くなっている。	朝の会におけるスピーチタイムでは、テーマを決めて話し質疑応答する形を取り入れているが、話題に沿った意見や質問であるかよく検討して話すように意識させるようにする。 また、学習や生活の中において、「聞く」ことの大切さを実感をともなって理解させられるよう工夫する。
かん字	・ 平均正答率は、漢字の「読み」で市の平均をやや下回った。漢字の「読み」「書き」どちらも、90%には達しておらず、十分満足とは言えない。	今後も、自主的に繰り返し漢字の学習が行えるように学習方法を工夫していく。また、毎日の漢字テストや定期的な確認テストでの習熟状況から、個別に支援を行っていくようにする。 また、日常的に文章を書く際には、学習した漢字を活用するよう指導を行う。
ことばの学しゅう	・ 平均正答率は、市の平均を上回ってはいるものの65.8%とあまり高くはない。 特に、国語辞典の使い方についての理解が不十分である。	日常的に国語辞典を活用する機会を設けることで、国語の学習だけでなく、言語事項についての定着を図る。 ローマ字については、パソコンの活用なども図りながら読み書きの実践の場を設けていく。
ものがたりの内ようを読みとる	・ 平均正答率は、市の平均より1.8%高い。 登場人物の気持ちを読み取る問題については、80%程度の正答率であるが、場面の様子を読み取る問題については66.7%とやや低い正答率になっている。	読書に対する興味関心には個人差があるものの、全体的に読書を好む児童が多い。しかし、ゲームやクイズなどの本ばかりを借りている児童も見られるなど、視覚的・短絡的な楽しみを求める傾向がある。そのため、朝の読書タイムを活用したり、スピーチタイムにおいて、お勧め本を紹介したりすることで、物語に触れる機会を多くしながら、登場人物の心情や場面情景などの読解力の向上を図る。
せつ明文の内ようを読みとる	・ 平均正答率は、市の平均より0.3%低い。 目的や必要に応じて、文章の内容を読み取る力が不十分であるという結果になっている。	筆者の主張を読み取る根拠となる言葉を押さえながら段落の要点をまとめさせたり、段落相互の関係を接続語に着目して考えさせたりしながら、説明的文章の読解力を向上を図る。
インタビューのようすとメモを読みとる	・ 平均正答率は、市の平均より1.5%高い。 しかし、市の平均と同様に50%を下回る正答率であり十分な結果とは言えない。特に、与えられた情報を正しく読み取り、必要な事柄を補う問題についての正答率が低くなっている。	スピーチや学習のまとめとして発表を行う際に、メモを活用して発表の内容を整理させたり、話したりすることで、メモのよさを明確にしていく。 校外学習で見学メモをとる際にも、事前に調べる内容を整理しておき、それに対応する形で行うように指導する。
作文	・ 平均正答率は、市の平均より13.3%高い。 経験・創造したことの中から書くことを決め文章を書くことと、自分の考えが明確になるように必要な事柄や理由を書くことについては、100%の正答率となっている。しかし、2段落構成で文章を書くことについては、63.3%と低い正答率になっている。	経験したことについて振り返る「行事作文」については、書くことが苦手な児童も意欲的に取り組むことができるので、今後も続けていきたい。また、段落構成を考えながら説明文を読み取る学習を通して、段落についての理解を深め、意味のまとまりを意識して文章を書く力を養う。